

2020年の活動の振り返りと2021年の活動の方向性（素案）

2021/01/31

赤字；会員から届いた意見や感想

青字；清水の意見や感想

■2020年の活動の振り返り

□全体的に

- ・新型コロナウイルスによる感染防止対策から、北山わんぱく夏まつりや北川クリーンアップなど主なイベントが中止、北山いきものクラブや外来生物捕獲活動などについても長期間にわたり活動が大きく制限された。また、総会や定例会の開催についても対面を避け、ネット上で開催せざるを得ない期間が長期間にわたった。
- ・**コロナ禍への対応では、その時点、時点での対応は適切だったと思われる。**

□2020年に特に力を入れて行おうとしていた事項

- ・組織の更新 →できるだけコア人材の交代を進める。若手の意見を取り入れ、若手が参加しやすいイベントの企画を追求する。併せて高校生や大学生の参加を推進していく。 ⇒ 多くのイベントの開催が制限せざるを得なかったことなどから、対応は不十分だった。
- ・提言活動や市民協働事業の推進 →生物多様性東村山戦略の制定を提言する、市民田んぼの立上げを支援していく、みどりの楽校の再構築を提言していくなど ⇒それぞれについて対応することができた。
- ・子ども向けイベントの集約化 →子どもに自然の中で楽しく遊んでもらうことを主眼に置きつつも、子ども向けのイベントの集約化を図っていく →北山いきものクラブと小学校土曜講座など。できるだけ第2土曜に集約化するなどの対応を ⇒結果的には雨で中止となった9月の北山小土曜講座と北山いきものクラブとの仕切りや人繰りについて課題となった。

□個別事項

1. 北山公園関係

- ・市民田んぼの本格的な立上げを目指す ⇒**コロナ禍ではあったが、試行的な稲作がはじまった。**来年度以降も市民を巻き添えにして着実に実施していく必要がある。
- ・菖蒲田の水路改修工事の改良について、状況を見守っていく ⇒改良後の状況は良好、**コロナ禍で川端会議の開催が制限され、市との意思疎通が不十分となった。**
- ・しょうちゃん池への浚渫土の導入の検討、協議 →関係者と調整していく ⇒未実施
- ・しょうちゃん池水際の在来植物植生帯の造成や池奥の湿地環境の改善（しょうちゃん池

- (南側) から導水すること等) →継続して提案していく ⇒未実施
- ・北山公園に通年で水(流水と止水)を確保、在来生物等のモニタリング調査 →継続して提案していく ⇒未実施

2. 北川流域関係

- ・生物多様性東村山戦略の提言を行っていく ⇒8月に市へ提言し、みどりの基本計画や環境基本計画に地域戦略の策定を目指していく方向と記載された。今後、実施に向けて注視していく必要がある。
- ・八国山二つ池の環境改善プロジェクト(外来生物の防除等)に協力していく ⇒二つ池ではザリガニの駆除が実施され、かいぼりは実施されなかった。
- ・新たなリーフレットの作成などにより川そうじ(北川クリーンアップ)への参加者の拡大を図っていく ⇒リーフレット案は作成したが、コロナ禍のため配布しなかった。
- ・北川の落差工解消プロジェクトを推進していくために、基礎調査となる流量調査を継続していく ⇒未実施
- ・狭山公園内の宅部池について、同公園生物多様性保全利用計画に基づく護岸の湿地化等の動向について見守っていく ⇒9月の狭山三公園管理運営協議会の質疑応答で、R3年度に実施設計、R4年度に整備工事、R5年度以降にモニタリング調査を実施する旨の回答あり。なお、12月には宅部池の3回目のかいぼりが実施され、かっぱの会関係者17名が参加した。今後も状況を注視していく必要がある。

3. 外来生物の防除関係

- ・市と外来種防除についての協定を継続して締結していく ⇒4月に協定を締結。
- ・上記協定に基づき、北山公園内の外来種の捕獲を継続していく ⇒コロナ禍のため、9月以降に本格的に実施、短期間であったが、ザリガニ用の捕獲網を製作して多くの外来種を捕獲し成果があった。一方、作業の軽減化を進め、新たに携わる人を確保するなど外来生物の捕獲活動をどう継続していくのかも課題。
- ・トウキョウダルマガエルを守ろう!キャンペーンや北山わんぱく夏まつりでのウシガエル捕獲大作戦を継続 ⇒菖蒲まつりや北山わんぱく夏まつりの中止によりこれらは未実施。
- ・市主催の外来生物防除事業に協力していく ⇒10月に開催されたイベントを支援(かっぱの会が仕掛けたカゴアミを参加者に引き上げてもらうなど)
- ・アライグマの防除対策を検討し、提言活動等を行っていく ⇒未実施

4. 環境調査関係

- ・北山いきものクラブや土曜講座で捕獲した生き物の種類等について記録を残していく ⇒十分に実施することができなかった
- ・上記について、高校生(東村山西高校など)や大学生に調査協力を呼び掛ける ⇒未実施
- ・魚類調査や外来生物調査、水質調査、ゴミ調査については、これまで通り調査を継続 ⇒魚類調査を夏まつりとは切り離して実施した他、例年通り実施した。

5. 子ども向けのイベント開催や環境学習関係

- ・北山いきものクラブの開催日にできるだけ土曜講座の開催を合わせ、集中的にボランティアの動員を図っていく。また新たなリーフレットの作成などにより、参加者やボランティアの拡大を図っていく。 ⇒春～夏はコロナ禍のため、秋は雨天だったため、結果的には未実施（北山小ヤゴ救出作戦は大人だけで実施）。雨で中止となった9月の北山小土曜講座と北山いきものクラブとの仕切りと人繰りについて課題となった（再掲載）。また、北山いきものクラブ（10月（順延して実施）、11月実施）の順延日の設定と開催内容の充実（昆虫関係など）も課題。
- ・北山わんぱく夏まつりについては今年も午前中中心の開催とし、さらに合理化を図っていく ⇒コロナ禍のため未実施
- ・小学校の総合的学習への講師派遣については、可能な限り対応していく ⇒北山小4年生の7月の魚とり、9月の外来生物、10月の川そうじに対応。大きな手ごたえがあった。

6. 関係機関との連携

- ・市役所については従来からの連携策に加え、生物多様性東村山戦略の策定や市民田んぼの立上げなどで連携していく。また、みどりの楽校やみどりの未来ミーティングの今後の方向性について議論し決定していく。 ⇒基本的には連携を図ることができた。
- ・西武・狭山丘陵パートナーズについては従来からの連携策に加え、八国山開設30周年記念イベントや八国山二つ池の環境改善プロジェクト（外来生物の防除等）で連携していく ⇒八国山開設30周年記念イベントではクイズを作成、八国山二つ池の環境改善プロジェクト（外来生物の防除等）ではザリガニ駆除用のアミの点検作業を見学し北山公園内で使用するカゴアミの改良につながった。
- ・トトロのふるさと基金のイベントに参加し交流を深めていくとともに、八国山たいけんの里自然部会や柳瀬川水系水環境連絡会、トトロのふるさと基金などとはこれまで通り連携していく ⇒トトロのふるさと基金については未実施、他は例年どおり実施。

7. 地域への情報発信関係

- ・当会の提言内容（生物多様性東村山戦略、旧学校田の市民田んぼ化、外来生物の問題点など）について、様々な媒体を使って情報発信していく ⇒従来通り、HP、ブログ、FB、かつば通信などを通じて発信したが、外来生物の捕獲で一緒に捕獲した在来種の写真をブログやFBで発信するのはやめるべきだという意見があった（悪意のある在来種の捕獲を排除していくため）。
- ・新たに制作する北山いきものクラブとクリーンアップの内容を周知するチラシで地域に情報発信していく ⇒リーフレット案は作成したが、コロナ禍のため配布しなかった。
- ・かつばの楽校の記事をベースとした新たな出版物等の企画を検討し、当面は編集方針（編集の切り口や実施体制、成果物の体裁、助成金の活用等）を固めた上で、実施の方向性を見定めていく ⇒実施の方向性について議論を深めてきた。
- ・かつば通信やFB、ブログ、北山公園内「水と緑の掲示板」などでの情報発信はこれまで

通り実施 ⇒実施

8. 支援者の拡大関係

- ・様々な人（特にファミリー層）が参加しやすいイベントとしていく。高校生や大学生にも参加を呼び掛けていく ⇒コロナ禍で実施したイベントに限られたこともあり、十分な対応をすることができなかった。
- ・様々な人（特にファミリー層）の意見や提案を取り入れていく ⇒コロナ禍で実施したイベントに限られたこともあり、十分な対応をすることができなかった。

■2021年の活動の方向性（主な論点）

□新型コロナウイルスによる感染防止対策

- ・参加者の安全を第一に考え、決して無理をして開催しない
- ・当面、打合せはできるだけオンライン会議やメールを活用して実施

□全体的に配慮していく事項

- ・できるだけ多くの人に声がけするなどを通して組織の更新を図っていく
- ・活動の輪を広げていくために関係する他団体との連携を模索していく

□各論

1. 北山公園関係
 - ・「東村山市公園のあり方」報告書を踏まえた施策を注視（北山公園にバーベキュー施設の設置など）。
 - ・川端会議への対応（今後も開催が見送られる場合には、他の手段での市との意思疎通が必要）
 - ・市民田んぼ活動を支援
2. 北川流域関係
 - ・宅部池の動向を注視（狭山公園生物多様性保全利用計画に基づく護岸の湿地化等の実施設計の内容など）
3. 外来生物の防除関係
 - ・市との協定は継続
 - ・活動期間を短縮し4月～10月実施、新たに携わる人の確保
4. 環境調査関係
 - ・北山いきものクラブや土曜講座で捕獲した生き物の種類等について記録を残す（記録を一元化していく）
5. 子供向けのイベントの開催と環境学習関係

- ・北山いきものクラブの開催の予備日の設定と開催内容の充実（昆虫関係など）
 - ・北山いきものクラブと土曜講座との開催調整（開催日、人繰りなど）
 - ・総合的学習の内容の充実
6. 関係機関との連携
- ・市の生物多様性東村山戦略の策定を推進、生きもの調査の骨子の検討
7. 地域への情報発信関係
- ・在来種を守っていくために、**FB** やブログでの在来種の写真掲載はやめる（HP 等に掲載の魚類調査結果やかっぱ通信への掲載、トウキョウダルマガエル保全キャンペーンなどについては従来通りとする）
 - ・市内の環境関係以外の市民活動団体との連携の模索
8. 支援者の拡大関係
- ・「全体的に配慮していく事項」に同じ

今後の予定

- ・今回のレポート、新しい企画、決算書を基に、もう 1 回意見等を募集（特に 2021 年の活動の方向性について）
- ・以上を基に 2 月 20 日頃を目途に議案書（案）を作成して配信
- ・3 月 6 日（土）13-15 時、または 3 月 13 日 13-15 時に総会を開催（中央公民館） ⇒一度は顔合せして議論を行った方がいいと判断（状況によってはオンライン会議方式で実施）。開催日は、今週の緊急事態宣言の延長状況によって判断する予定。